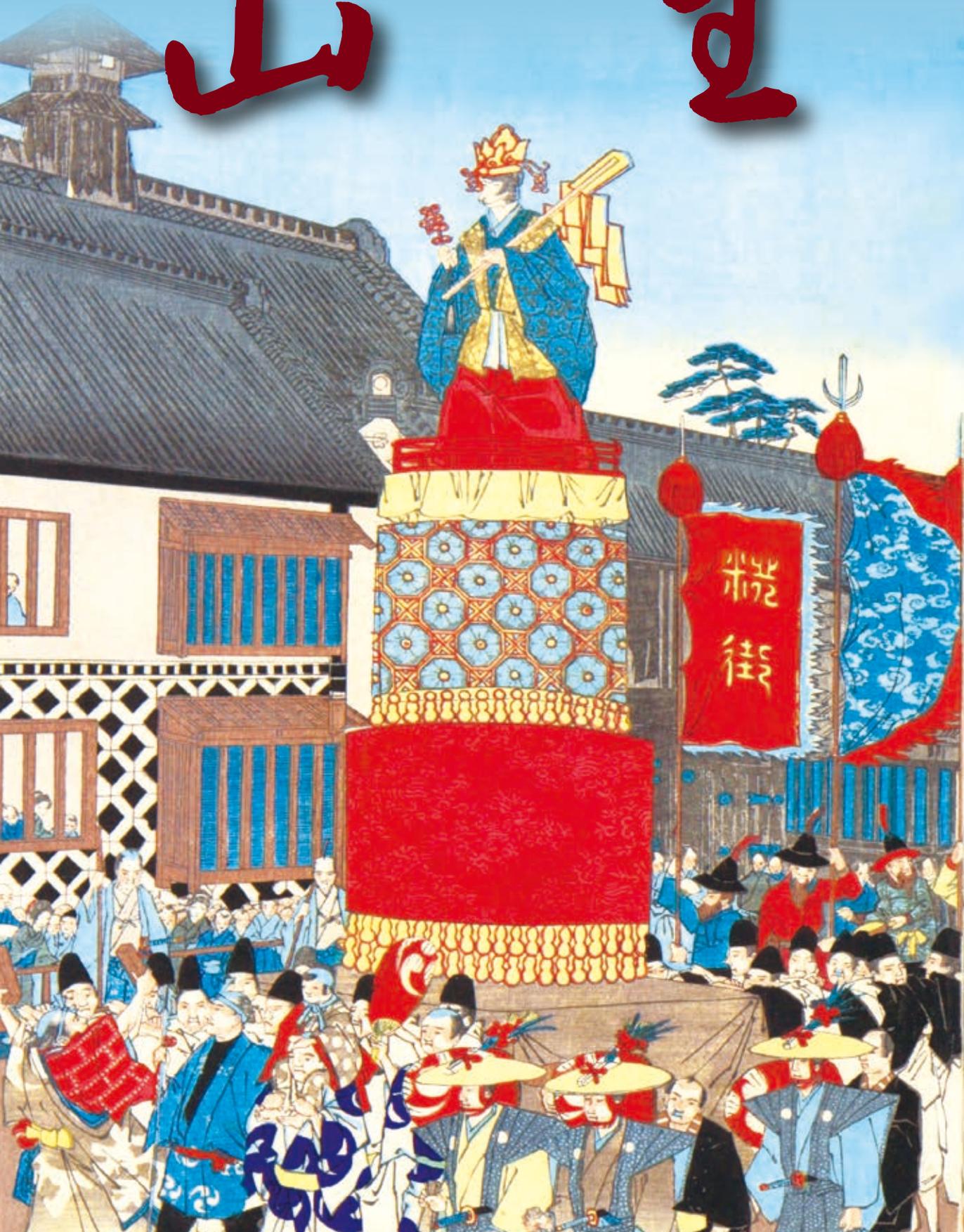


通卷128号

山王



御 挨拶

宮 司 宮 西 修 治

去る四月の「熊本地震」の犠牲になつた方々の御冥福をお祈りし、被災された方々には謹んでお見舞申上げ、一日も早い復旧復興を願つてやみません。人智を越えた大自然の脅威を目の当たりにし、打続く余震の恐怖に曝されながら多くの人々にできることといえば、ただひたすら「祈る」ことだけだったのでないでしょうか。斯様な時、人間の無力さ、小ささを痛感します。

「国安かれ、民安かれ」というのは 皇祖天照大御神始め八百万神に対する 天皇陛下の日々のお祈りですが、我々神職は月毎の祭典や四季折々の神事に於て、皇室の御繁栄と国家の安泰とをお祈りしています。殊に隔年執行の本祭の今年は、平生は御社殿に鎮まる大神様が氏子区域を巡り、その繁栄を愛で、各町内遍く幸を分け与える神幸祭斎行の佳年です。氏子各町では盛大な神輿渡御が行われ、文字通りの「神賑い」が此処彼処で繰り広げられることによって、氏神様の御神威は益々高まり、その御神徳によつて地域が活性化し、そこに生活を営む人々が元気になってゆく。「祭」は単なるイベントではなく、多くの人々の「祈り」であり、氏神様は地域共同体の心の拠り所、いわば「文化の核」です。

「東日本大震災」以来、氏神様とその地域に伝わる「祭」の大切さが見直され、被災地の復興に重要な位置を占めていると聞きます。江戸時代、当社の神輿が城内に入り將軍の上覧を受け、また明治以降は「皇城之鎮」たる由縁を以て皇居坂下門前で祭を行い、神符を献上する。江戸山王権現以来の伝統を再認識するとともにその歴史を今に伝える誇りと責任の重さに身の引き締まる思いです。「祭」の本義を忘れず、氏子崇敬者の皆様の御理解御協力を仰いで盛大に齋行すべく、精進を重ねて参ります。

平成二十八年

山王まつり

行事日程

六月

七日(火) 十一時

末社八坂神社例祭

九日(木) 十二時十五分

ミニコンサート「につぼんの歌」

十日(金) 七時三十分～十六時四十五分

神幸祭

― 皇居参賀・氏子各町巡幸 ―

十一日(土) 十三時～十四時

稚児行列

同 十七時

上町連合宮入

十二日(日) 十一時

境内茶園並狭山新茶奉納奉告祭

十三日(月) 十一時

表千家家元献茶式

十五日(水) 十一時

例祭

― 皇城鎮護・都民平安祈願 ―

十六日(木) 十一時

煎茶礼道日泉流献茶式

同 十三時

山王嘉祥祭

十七日(金) 十時

裏千家家元献茶式

十三日(月) 十八時半

山王音頭と民踊大会

十五日(水)

十二日(日) 九時

下町連合撰社宮出し

同 十二時

下町連合渡御

― 京橋～日本橋 ―

特別寄稿



参議院議員

山谷えり子

父の背中

今年の十一月二十八日、亡き父山谷親平の三十三回忌を迎える。七月に改選期を迎えるため、例年以上に全国を休みなく飛びまわっているが、今でも「お父さんのラジオを毎朝聴いていた」、「親平さんの「絶望は愚か者の結論なり」の言葉で、人生をやり直すことができた」など、たくさんのお声をかけていただく。

中には、加藤隼戦闘隊で父と共に戦った方との出会いや、家族も保存していなかったラジオのテープをダビングしたものを送りくださる方もいる。

ふと思いついては、テープを聴

いてみる。三十四年間いつも傍に
あった父の声。

みるみるうちに、私もただの子
供となる。

父の放送で、数回にわたって
男の条件について語ったことが
あった。

「ひっぱたかれても屁とも思わな
い強靱さ、ピンチを平気で切り抜
けていく男。ピンチになっても怖
がらない。やせガマン。これが「男
の魅力」」

「『男の人生』：人生は挑戦した
目標に向かって継続すること。続
けばベテランという味になる。自
分をコントロールしながら、一つ
の目標がけて努力をしてやめな
い。」

女の魅力、女の人生にも通じる
ものだ、一人のリスナーとして
聴くこともある。

先日、新聞の読者欄を読ん
たら、栃木県の七十五才の男性が
主張欄を読んで故山谷親平さん
思い出したという記事を目にした。
「山谷さんは二十年間、ニッポン
放送でラジオパーソナリティーを
務めた産経新聞政治部記者OBで
すが、朝の番組で日本人をよく叱
り、われわれは『そうだ！』と共
感したものだ」という内容のも
のであった。

歯に衣させぬ父の語り口に、当
時の私はハラハラすることもあっ
たが、三十年以上を超えてなお、
父のことを思い出してくれている
方々がこんなにもいてくれること
は父にとつて最高のプレゼントで
あろう。

小学校低学年の頃、父に連れら
れレストランに行った時、将来の
夢を聞かれ「新聞記者」と答えた
私に「いいねえ。えりちゃんのそ

のナイフとフォークの使い方なら、
将来新聞記者になってアメリカの
大統領と記者会見したあと、ホワ
イトハウスにディナーに呼ばれて
も大丈夫だよ」と言った父。

この言葉で「人生って、けっ
こ面白いみたいだ。人生やりた
ければ、いろんなことがやれるん
だ」と強烈な光と解放感に包まれ
た。私にとつて転機となる一言で
もあった。

三児の母となり、編集長となり、
国会議員となり、大臣という重責
にもつかせてもらったが、六十二
才で逝った父の年齢を超えても、
未だ父の背中をこえることはでき
ない。





江戸神輿と八坂神社

江戸祭禮研究

山瀬 一男

平成廿八年六月、伝統の山王祭が始まる。産子各町は祭りの晴れ舞台に湧き、神輿が町に溢れる。

江戸時代の山王祭は、山車や屋台などの附祭りの祭禮で、その山車文化は関東一円に拡がっている。現在の山王



八坂神社

祭は神輿祭に変化しているのだが、何故であろうか。その鍵となるのが末社「八坂神社」なのである。そして八坂神社が日枝神社の境内に創建され百三十年の節目の年となるのだ。

江戸天王祭（祇園祭）

江戸の最古の神（地主神）は記紀神話で知られる「素戔嗚命」である。のちに仏教上の神「祇園牛頭天王」と神仏習合し、素戔嗚命の祭の事を「祇園祭」とか「天王祭」と称するようになった。荒ぶる神の神威を借りて疫病退散の祭りを行ったのである。

江戸天王祭は慶長十八年（一六一三）六月七日に、南傳馬町（現京橋）の名主「高

野新右衛門」が、大手門に天王神輿を持参し奉幣したこと

から始まった。のちに、社を神田明神の摂社として三殿に分けて造営し、天王社一之宮の御祭神を素戔嗚命（宮元南傳馬町）、二之宮を御祭神五男三女（宮元大傳馬町）、更に三之宮御祭神を奇稲田姫（宮元小舟町）として、日本橋界限を三つの神域に分けた。天王祭は毎年六月初旬から中旬にかけての長丁場の祭

で、城下町を大いに賑わす大祭となった。中でも一之宮の神輿は大手門から江戸城に奉幣した後、南北町奉行所までもお被いをした。

こうした神輿祭の天王祭は、両天下祭（山王祭・神田祭）と平行して徳川二百五十年の間、毎年六月に執り行われていた。

江戸神輿の出現

徳川家康が入府した頃、江戸には文化というものは殆ど無く、様々な文化の大半は上方から導入したものだ。祭禮文化も然りである。神輿も当初上方の型式をしていた

が、徳川期二百五十年の間に天王祭を通じて江戸神輿とし

南傳馬町天王御祭禮



て発展していった。上方の神輿と江戸の神輿の型の違いは様々あるのだが、江戸神輿の特徴的なものを紹介しよう。

天王社の宮神輿が渡御してくると、観衆達から神輿に向かって御捻り（賽銭）が投げられた。更に魔を祓うものとして、魔除けの団扇も神輿に向かつて投げられた。これは江戸前の風習と言っている。神輿が御捻りを受けるための装飾として屋根の際に付けられたものが「葺き返し」（俗称賽銭受け）である。

現在、東京中で担がれている神輿の大半にこの葺き返しが付いていることから、ある意

味で天王神輿を担いでいると言っても過言ではないが、賽銭投げの風習は今となつてはほぼなくなつてしまった。団扇に関しては、埼玉県熊谷市の祇園祭が「うちわ祭」として有名である。江戸天王祭の団扇投げを模し、団扇を配るというかたちで祭禮文化が熊谷に伝わっている。他所では栃木県宇都宮でも近年まで団扇投げが行われていたようだ。

幕府主導の天下祭での宮神輿は、定められた町の人々が白丁（白装束）の姿で神輿を採まらずに担いだのに対し、天王祭の宮神輿は幕府が一切関知せず、勇み肌の江戸っ子達

が、揉み担ぎ^①していた。産子町内から町内へ、次から次へと神輿渡しを行い、いわば産子地のあらゆる露路へも神輿を巡行させ町々を祓^②って行く。まさしく江戸神輿祭の原

点が天王祭にあるといえよう。

江都三大祭とは…

ところで、山王祭の宮神輿三基は、祭禮行列の最後に巡行したのだが、それぞれの宮



南傳馬町中橋天王団扇投げの図

神輿を担いだのは、大傳馬町・南傳馬町・小舟町であった。神輿を担ぐという点で、天王祭宮元三町がそれを分担したわけだ。

両天下祭と天王祭が共通して言えることは、祭禮行列が江戸城に入城し、城下町(下町)を大いに賑わせ、数多くの錦絵にも描かれていること、そしてその祭禮文化は関東一円に伝播し現在もおお影響力を持ち続けていることだ。したがって『江都三大祭』とは山王祭・神田祭・天王祭なのである。

明治以降の江都祭禮

文久二年(一八六一)の山王祭を最後に、上覧祭としての天下祭は終焉を迎えた。天王祭も新政府が神仏分離令を出すことにより、仏教色が強い御祭神の祭禮とも捉えられ、次第に衰退して幻の祭りとなっていく。山車祭としての山王祭も、序々に路線を拡大していった市電の跨線により、山車曳きが出来難くなっていた。山王祭や神田祭は、明治末期く大正期にかけて天王祭の神輿の運用方法を取り

大正期八坂神社祭禮古写真



入れながら、山車祭から神輿祭へと変貌していった。ところで明治九年に日本橋をはさんで北側が神田神社の産子地、また南側が日枝神社の産子地と神域を確定されたことにより南傳馬町界限は日枝神社の産子地でありながら、南傳馬町が奉斎する天王社一の宮は神田神社境内にあるという錯綜する型となってしまう。

末社『八坂神社』

神田神社地にあつた南傳馬町の天王一之宮は、明治十八年(一八八五)二月十三日、湯島の火災により社と神輿は共に焼失してしまった。

これを契機に翌明治十九年(一八八六)、南傳馬町と一之宮の産子(全て日枝神社の産子町)は京都八坂神社から素戔嗚命の御分霊をいただき、日枝神社の社地に八坂神社を末社として創建、江戸最古の神を祀ることになった。つまりは、江戸の天王一之宮の本流が日枝神社に鎮まっているということである。

こうして本年は八坂神社創建百三十年の節目の年となる。現在の山王祭を語る時、山王の大神様は勿論の事、あらためて末社八坂神社への思いを馳せる年となるのではないだろうか。

天王三之宮産子
日本橋住人記す





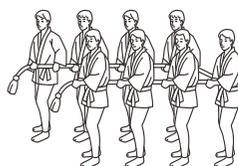
今年の千支山車「三番叟」

待ちに待った二年に一度の神幸祭の年が来ました。六月十日の金曜日の朝七時半に御鳳輦、宮神輿、山車が出御され、夕方五時頃まで氏子中を隈なく回ります。

今年は日枝大神の使いの猿に因んだ申年という事も重なって例年と比べても大きな盛り上がりを見せる事になりそうです。恒例の千支山車も、申年の猿という事でとても力が入っております。お題は「三番叟」になります。

三番叟とは能の「翁(式三番)」で千歳、翁に次いで三番目に出る老人(叟)の舞です。儀式的な性格を持つ舞であり、大変にめでたい舞とされています。三番叟の舞と猿が結びついた事についての通説ははっきりしません。能・狂言の前身が猿楽(滑稽な物まねや言葉芸)だった事を考え

ると、自然な結びつきではないでしょうか。日枝神社の神使の猿は神猿(まさる)とも云われ、「まさる」が「魔去る」また、「勝る」に通じることから、悪い事が去る、勝負事に勝つ等と信仰されております。三番叟の猿にも、「難を去り、厄を除くように」という願いも込められていますので、無病息災を祈りながら、日枝神社神幸祭を楽しんでいただければ幸いです。



展覧会



四月六日より四月十九日の間、日本橋高島屋一階正面ホールにて山王祭の企画展示が催され、山車をはじめ神幸祭で使用される装束等が展示され、期間中買い物に訪れた方々は、一足早いお祭気分を楽しみました。



七月二十七日にランドオープンする「東京ガーデンテラス紀尾井町」では五月二十一日より六月十七日まで二階オフィスエントランス等にて山王祭の展示・装飾が行われます。場所は千代田区紀尾井町一―二



©3331 Arts Chiyoda

平成二十八年山王祭を祝し、五月二十六日より六月十二日の間、アーツ千代田3331 特別企画展「山王祭のいま・みらい」が開催されます。〜まちが支える江戸の粋〜が開催されます。会期中は無休。入場料は無料。会場はアーツ千代田3331(千代田区外神田六一―十一―十四旧鍊成中学校)



武州加須囃子奉納



六月十一日(土)、埼玉県加須市の武州加須囃子保存会本町太鼓連が奉納演奏を行います。

武州加須囃子は慶応初年(千八百六十年代)に北葛飾郡吉川町から伝授された里神楽の囃子で、葛西囃子の流れを汲んだ曲と伝えられます。

現在の武州加須囃子保存会は昭和五十五年四月に発足し、本町支部として活動。

加須市本町には明治十六年に江戸日本橋の三町(通油町・田所町・新大坂町)から譲り受けた「蘭陵王山車」があります。

文久二年に江戸で建造され山王祭にも二十一番山車として曳き出されました。現在も旧来の江戸型鉾山車の姿をそのままに残し、加須市指定有形民俗文化財に指定されています。



平成二十八丙申年六月十日(金)
日枝神社神幸祭御順路
 (→↑進行方向を示す)

時刻は事情により前後することがあります。



日枝神社
 御発籠 7:30
 御還御 16:45

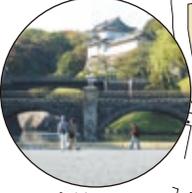


靖國神社



国会議事堂

首相官邸前 16:30



皇居(二重橋)

内幸町交差点 16:10

帝国ホテル角 16:00



国立劇場
 (元山王)
 御発籠 10:25
 御還籠 10:45

警視庁前 11:05

祝田橋交差点 11:15

外苑坂下門口 11:30



皇居坂下門
 御発籠 11:35 駐籠 12:00
 御還籠 12:00 参賀・神符献上

丸ビル角 12:05

丸の内二丁目 12:20

鍛冶橋交差点 12:30

すすらん通り入口 12:50



日本橋日枝神社
 (摂社)
 御発籠 13:10
 御還籠 14:10

麴町一丁目交差点 8:05

四谷駅前 8:30

四谷一丁目 8:45

車町交差点 7:50

主婦会館前
 御着籠 9:00
 御発籠 9:15

麴町四丁目 9:25

靖國神社南門 9:55

麹町警察署前 10:15

内幸町交差点 16:10

帝国ホテル角 16:00

東京宝塚劇場前 15:55

コリドー通り 15:45

新橋一丁目
 御着籠 15:15
 御発籠 15:35

銀座四丁目 15:00

銀座一丁目 14:50



東京駅

京橋三丁目 14:45

日本橋交差点 14:30

航空法に基づき、原則無人飛行機(ドローン等)の飛行は禁止です。

渡御

山車

神輿



麓町惣町睦会

山車と各町神輿の連合宮入



6月11日(土)

16:00 清水谷公園

(紀尾井町)集合・出発

(終了は19:00ごろとなります)

巡行路概略

清水谷公園

↓
弁慶橋

↓
赤坂見附

↓
日枝神社赤坂門

↓
山王男坂

↓
日枝神社



三番町、九段三丁目、九段四丁目の三台の山車と上町氏子町会の神輿が夕闇せまる日枝神社に宮入します。

<http://koujimachi.net> (麹町わがまち情報館)

<http://www.stage9.or.jp> (九段商店街振興組合)

でも詳細をお知らせしています。





下町連合

山王祭

神輿

京橋から日本橋へ、擬宝珠から擬宝珠への下町連合渡御



奉祝山王まつり

順不同敬称略



(株)ぬ利彦
代表取締役
社長

中澤彦七

3口

(財)伊勢社寺保存会
会長
代表評議員
東京支部長
小川昌美
岸奈美
田中正子

10口

マネックス証券
松本大

永田町・霞ヶ関
平河町

3口

山の茶屋
遠藤恒夫

2口

(株)ザ・キャビトルホテル東急
総支配人
行澤博史
(株)食文化総研
代表取締役
レストラン黒澤グループ
丸總子

永田町 天竹
荻原秀夫

日枝神社四葉会
山王むらさき会
会長
清水威人

(株)アルファビデオ
代表取締役
青山裕生

(株)植むらフーズ
代表取締役
十文字弘美

麹町・紀尾井町

(株)泉屋東京店
代表取締役
社長
泉邦夫

(株)ニュー・オータニ
代表取締役
社長
大谷和彦

(株)ジー・コーポレーション
代表取締役
眞下慶一郎

有ナリタ美容室
代表取締役
成田弘子

(株)桜井食品
代表取締役
社長
桜井勉

(株)伊勢半本店
代表取締役
社長
澤田晴子

番町・九段・四谷

三番町
田中康博

(資)清水隆商店
代表社員
清水昭治

一般財団法人 不審菴
理事長
千宗左

(株)千修
代表取締役
社長
下谷友康

柴田純理士事務所
SHIVAヘリガンスタジオ
柴田哲義 恭代

(株)ぶんか社

大手町・丸の内
内幸町・有楽町

東宝(株)
名誉会長
松岡功

泉吉(株)
代表取締役
岸本昌子

(株)帝国ホテル
取締役社長
定保英弥

(株)東京會館
取締役社長
藤原幸弘

TANAKAホールディングス(株)
代表取締役社長
田苗明

有楽町・美宝ビル
青山モリタビル
森田定亮

八重洲・日本橋

東京建物(株)
代表取締役
社長執行役員
佐久間一

(株)栄太樓總本舗
代表取締役
社長
細田眞

日本橋ゆかり
野永喜一郎

日本橋吉野鮎本店
吉野正敏

エスビー食品(株)
代表取締役
社長
山崎雅也

川崎定徳(株)
川崎雄厚

木村實業(株)
代表取締役
木村平右衛門

(株)日本橋錦豊琳本店
代表取締役
鈴木貴博

金子架設工業(株)
代表取締役
青木茂

八丁堀
茅場町・兜町

北見不動産(有)
会長
北見芳夫
代表取締役
北見丈亜

(資)北見商店
北見まさゑ

いちよし証券(株)
執行役社長
小林稔

京橋

(株)大澤ローヤル
代表取締役
大澤忠政

清水建設(株)
取締役社長
井上和幸

中島金属箔粉工業(株)
代表取締役
中島武

第五十二回 奉納書初展

正月恒例の書初展は、奉納作品を正月期間（一月十五日迄）境内に展示しました。一月六日午後二時より社殿にて奉告祭が執り行われ、引続き参集殿にて山王奉書会を開催しました。今回は宮司賞を東京家政学院中学校の遠藤真澄様が、氏子崇敬会長賞を富士見小学校の村井陸斗様が其々受賞されました。



山王奉書会（参集殿にて）

第五十二回 山王奉書会
表彰者芳名（順不同）

宮司賞

東京家政学院中学校

遠藤 真澄様

氏子崇敬会長賞

富士見小学校

村井 陸斗様

秀作

富士見小学校

齋藤 雛子様

お茶の水小学校

加藤 仁奈様

月島第三小学校

清水 美羽様

港南小学校

内田 凜様

港南小学校

森川 里咲様

神田一橋中学校

中野 香帆様

九段中等教育学校

岩男 空様

赤坂中学校

鳥巢 香里様

上石神井中学校

中嶋 春香様

宮司賞をいただいて

東京家政学院中学校二年

遠藤 真澄

今回の日枝神社奉納書初展において、私は宮司賞をいただきました。とても感謝しています。私は小学六年生の時に書道に興味を持ち始め、中学生になってから書道部に入りました。二年間活動してきました。これまでは楷書や行書を書くことがほとんどでした。

私が篆書に興味を持つようになったきっかけは、学校で論文を書くことになり、書道の書体について調べるようになったことです。調べていくうちに楷書、行書、草書以外の書体もあることを知りました。その中でも篆書の記号のような見た目に魅力を感じ、書いてみたいと思います。そこで今年の日枝神社奉納書初展は篆書で出品したいと顧問の先生にお願いしました。書き始めたのは昨年の十月頃でした。最初は半紙で二文字ずつ練習しました。書き始めの筆の入れ方に

氏子崇敬会長賞をいただいて

富士見小学校五年

村井 陸斗

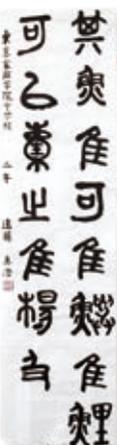
第五十二回日枝神社奉納書初展で氏子崇敬会長賞をいただきました。たくさん作品の中から選ばれたことはとても嬉しいです。ぼくは今回「日進月歩」という言葉を選びました。たった四文字ですが、その中には書道の基本が多くつまっていたので難しかったです。

また、言葉の意味を考え大きく力強く書くことを意識しました。何回も練習して、一生懸命書いた作品は、思っていた以上によいものになったのでとても満足していました。自分らしく書き上げることができたのは本当に嬉しかったです。

そして、全力以上のものをぶつけて出来上がった作品が今回の賞に選ばれたことは、ぼくの誇りです。受賞できたのは、今回の書初展に参加したいと立候補し選んでくれた富士見小学校の先生、一緒

慣れず、大変でした。書いていくうちに篆書は私に主として書いていた楷書とは書き方が違い、起筆の逆筆や横画は水平にする、そして、縦画は垂直にする、と、左右対称にする、ことに注意しなければならぬことが分かりました。また、書き順や墨の量の調節などで苦戦しました。初めて出会う字なので書き順に慣れるまで時間がかかりました。墨の量は多すぎてもにじんでしまうし、少なすぎてもかすれてしまうのでちょうどよい量にするというのが難しかったです。たくさん練習してやっと作品が完成した時とても嬉しかったです。その時はまさか宮司賞をいただけるなんて思ってもいませんでした。

今後は、まだ書いたことのない隷書などの書体に挑戦してみようと思います。多くの書体に触れながら書道を楽しんでいきたい所存です。



宮司賞

にどの文字を書くか考えてくれたお父さん・お母さん、いろいろなことを教えてくれた書道の先生のおかげです。また、ぼくは転校してしまつたのですが、転入先の葛飾区立高砂小学校でもたくさん先生がほめてくれました。また、二つの学校の友達に祝ってもらつてぼくは幸せものだと思つました。この経験はぼくをまた一つ大きくしてくれました。皆さん本当にありがとうございます。

ぼくは春から小学校六年生になります。後輩たちを引っ張っていく最高学年です。不安なことも多くありますが、今年書いた「日進月歩」を目標に、小さなことを積み重ね日々大きく成長していきたいと思います。そして、これからも書道を頑張ります。



富士見小学校五年村井陸斗

氏子崇敬会長賞

雅楽

〔第五十二回 奉納書初展・山王奉書会記念講演〕

元宮内庁式部職業部首席学長 豊 英秋 先生

明けましておめでとうございます。

今日は新春に相应しく、雅楽についてお話しします。一般的な雅楽(唐楽)は、笙、篳篥、龍笛、琵琶、琴、打物といった大合奏、則ち「管絃」で構成されます。我々はオーケストラの事を良く「管弦楽」といいますが、これも先程の雅楽の言葉に由来しています。その歴史はおそらく音楽としては一番古く、約千数百年前に成り立っています。勿論最古の文明が栄えたエジプト等でも音楽はありましたが、時代と共に全て新しい物に変わります。しかし日本ではこうした昔からの音楽が残されており、私は雅楽を「音楽の正倉院」と申しております。そして雅楽は、①笙、篳篥、龍笛などの唐や朝鮮半島を伝わって来た音楽(唐楽・高麗楽)と、②「国風歌舞」という我国に三千年位前からあるという音楽と、③それらを合わせて一緒に作り上げた音楽(催馬楽・朗詠)の三種類を足した、

幅広いものなのです。

次は雅楽の音色についてです。例えば古代中国の唐の都、長安から伝来した「調子」という曲があり、笙で演奏すると、パイプオルガンの様な響きです。実はこれも千数百年前から伝わった和音をそのまま演奏しています。こういう音が古代日本、奈良時代から現代まで日本の伝統となっている事を大変素晴らしいと思います。因みに現代では調子という言葉は、例えば体の調子が良い、等と使います。実はその語源が、雅楽の「調子」なのです。先ず「調子」を演奏して、その日の具合をコントロールして楽器を演奏する事から「調子が良い、悪い」という様になったのです。雅楽はとても縁遠く思われますが、言葉の中には沢山使われています。例えば、「呂律が回らない」です。雅楽には「呂」と「律」という音階があつて、曲を演奏している時に、その使い分けが上

手くいかない事から「呂律が回らない」といわれる様になりました。また「やたらめつたら」という言葉があります。日本は農耕民族ですので四拍子の曲が多いのですが、雅楽には「八多羅拍子」という二拍三拍で絶えず太鼓を打ち鳴らす混合拍子の曲があり、これが結構難しい事から「やたらに〇〇」と使われる様になりました。

次に「国風歌舞」ですが、我国最古の楽器である和琴を弾きます。これを私達は神様に一番近いところで神様をお迎える為の楽器として使っており、楽器の中でも最上位に位置付けます。私達が先ず神様の前で演奏するのは「菅搔」という旋律です。これから「神楽」という大変重要な祭典が始まるわけです。ところで、この曲どこかで聞いた事があると思います。学校で授業の開始または終了等の時のチャイムです。これは三千年近くからの曲をちよつと音の配置を変えただけで、全く同じ和音です。という事は私達の心の中にこういう自然な響きがあつたから、何の抵抗もなく耳に入つて来たのだと思います。これが、先の古い

音楽「菅搔」になる訳です。そして「国風歌舞」の名称の通り歌が付きます。この歌は儀式の最も神聖なところで演奏される曲の一部です。実は、この曲は全て演奏すると六時間位掛かります。夕方六時から日付が変わる頃まで演奏されるのです。これを「神楽」といいます。こうした曲が皇室の中では年に何回か演奏されます。なお、明日は昭和天皇御命日ですので演奏されます。また、おめでたい時にも演奏致します。大変幽玄な音楽です。因みに西洋では、儀式の音楽としてオルガンで伴奏される讚美歌が一番近いですが、我国の「国風歌舞」では和琴を中心に笛と篳篥と歌と舞で構成され、廻れば、記紀の始めの方に記されている神話の天の岩戸開きに辿り着きます。天の岩戸に閉じ籠つてしまわれた天照大御神様をお慰めしようとして岩戸の周囲で火を焚き、樂しげに歌い踊つて大御神様の気を引き、岩戸を開きかけを作つたという神話が、そのまま神楽として伝えられております。これも雅楽であります。それから舞楽もあります。これは歴史を紐解くとローマにまで辿れるそう

です。シルクロードを通過して伝えられて来た音楽で、その道程で色々と吸収して大陸を越えて我国に伝わり、左程変わる事もなく残っています。だから雅楽は大変貴重且つ我国が誇るべき音楽、文化であるので、これから雅楽を聞く時は、少しでも意識をもっていただければ面白いと思います。



ます。

ところでドビュッシー（フランスの印象派の作曲家）は、第一回のパリ万博の時に日本から持ち込まれた雅楽を五線譜に認めたものを目にして強い影響を受けて、後に印象派に確立したといわれております。確かにパリ万博を経て彼の音楽はガラッと変わります。そういえば私も「調子」を二昨年ドイツのケルンの教会で演奏したところ、音色がオルガンに似ている為かとても喜ばれました。また筆筈はオーボエやクラリネットに似ているので違和感が少ない様です。

それから、「演歌」には朝鮮半島から伝わって来た音楽の中に全く同じものがあります。この他にも「A列車で行こう」等の楽曲で有名な音楽家のデューク・エリントンはドビュッシーを大変尊敬しており、その和音を研究して今のジャズを作ったといわれています。ク

ラシックばかりでなく歌謡曲やジャズ等あらゆる音楽が雅楽の要素を取り入れて出来上がっているのです。

最後に雅楽に纏わる言葉の補足です。例えば「野暮」があります。その由来ですが、笙には十七本の竹が使われ、この内の十五本には舌（リード）が付いております。この十七本の竹には其々名前が付けられています。そして二本鳴らない竹があります。「也」「毛」です。この二本はリードが付いていないので鳴るわけがないのです。その事から「野暮」といわれる様になつたとの説もあります。また「千秋楽」という言葉は相撲や芝居等での最終日に使われていますが、実は昔、東大寺での法要の一番最後に演奏された曲であったので、最後のものを「千秋楽」という様になりました。他にも、「打ち合わせ」ですが、明治までは大阪と奈良と京都に楽人がおりました。奈良は朝鮮からの人々。大阪は中国大陸の人々。京都は我が国の人々。そして一緒に稽古する機会がありました。しかし其々微妙に違います。

そこで、楽人の中でも一番偉い人が打楽器担当なので先ず集まって色々相談して、他の担当よりも先に約束事を取り決める事で丸く収まり演奏が成功した事に因むそうです。それから、「長慶子」。これも締め括りに演奏する事が多いのですが、例えばこれまでの事（失敗等）も開き、最後という事で「帳消し」にしようと思いがわせたのではないかとこの説もあります。また舞については、ペルシャ人の様な面を付けて行なうものや、軽やかな「二の舞」等色々ありますが、「二の舞」は人と同じ失敗を繰り返す意味となつていきます。なお、雅楽と聞くと四角四面かという印象としてそうではなく、花の傍に流れる川や池等に舟を浮かべ、その上で演奏しながらお酒を戴いたりもします。だから雅楽にはお酒に纏わる曲も多いです。また子供達による舞（童舞、胡蝶等）もあり、知らず知らず接しているとても身近なものなのです。それではこれにて終わりと致します。御清聴有難うございました。

山王祭事暦

緑蔭朝詣りとラジオ体操の集い

七月二十日(水)～八月三十一日(水)

管感謝祭

八月四日(木) 十時三十分

敬老祭

九月十九日(月) 十四時

山王祖霊祭

九月二十日(火) 十一時

新嘗祭

十一月二十三日(水) 十時三十分

予 告

中秋管絃祭(第四十九回)

九月十五日(木) 午後六時

中秋のひととき、雅楽を心ゆくまで

ご鑑賞ください。

管 絃 黄鐘調音取(おうちきちょうのねとり)

越殿楽(えてんらく)

西王楽破(さいおうらくのは)

神 楽 剣の舞(つるぎのまい)

悠久の舞(ゆうきゅうのまい)

日枝の舞(ひえのまい)

舞 楽 小野雅楽会奉仕

スケジュールや神幸祭の列次をチェック!

日枝神社 山王祭公式アプリ

無 料

ホームページ・Twitter・Facebookでも情報を公開しています。QRコードもしくはURLからご覧ください。



山王祭 公式ホームページ <http://www.tenkamatsuri.jp/>



山王祭 公式 Twitter <https://twitter.com/sannoumatsuri>

iOS端末 App Storeにて「日枝神社」で検索



日枝神社 公式 Facebook ページ www.facebook.com/hiejinja/



©わたせせいぞう

Bridal Fair 総合婚礼展示会

- 平成28年7月16日(土) 10:00~18:00
- 平成28年7月17日(日) 10:00~17:00

婚礼相談、館内や境内の見学、披露宴会場見学、衣裳展示、試着、引出物、引菓子展示ほか

日枝神社 結婚式場

日枝 あかさか

東京都千代田区永田町2丁目10番5号
TEL.03-3502-2205 FAX.03-3502-8948
<http://www.hieakasaka.net/>